

高尾山

上山 G 25 日

以前に毎日新聞旅行でツアーガイドをしていた上山ひとみさんが、今は別の旅行会社でやはり海外の山旅を中心にツアーガイドをしている。コロナ過で今は海外ツアーができないので、成田空港で入国者の案内をする仕事をアルバイト的に行っているみたい、相変わらずのパワフルママぶりである。今回は、彼女の海外ツアーのお客さんで数か月前に山で骨折をした人のリハビリ登山と銘打っている。この T さんは 83 歳であるということだ。ただしこの日の歩き方を見る限り高齢者の手術後リハビリとはとても思えない立派な歩き方であった。総勢 7 人のメンバーは、私以外はみんな上山さんの海外ツアーのお客さんみたいだ。やはり海外の場合は日数も長いので親しくなる機会が多いのであろう。私の実感でいえば、1997 年のキリマンジャロの時のように今でも年 1 会くらいは顔を合わせるメンバーもいるが、特に最近のツアーは年賀状のやり取りすらなくなってしまったところである。成田でさよならを言ったらそれきりである。上山さんの場合は誰にでもフレンドリーに接するので、このような仲間ができるのであろう。これに私が参加したのは、たまたま上山さんが Facebook に投稿したのを見つけて連絡をしたのがきっかけであった。私は彼女の毎日新聞旅行時代の客であるので、2013 年の針の木岳経由で、船窪小屋に行った時以来ではないかと思う。

おばさんの一人が花を見ながら、



スマイレのことに触れたので、“スマイレは世界に 800 種類くらいあって、日本にはそのうちの 60 種類くらいある。日本では草花として咲くが外国のものはほとんど木であるということラジオで聞いたことがあるよ。”と知ったかぶりをしたら、“アッそれラジオ深夜便のことでしたら私です”という人がいる。I シナさんと、月に一回R1のラジオ深夜便で定期的に話をしているそうだ。俺は昔から知っていた、的ない言い方をしたとしたら大恥をかいた処である。なんと I シナ先生は筑波の方にある研究所の所長で日本高山植物学会の会長も務めているということで、ハンパない。

明日からはコロナ過回避のために緊急事態宣言が出る事が決まっているのに、山頂近くで宴会を始めた。最初の内は酒は隠しながら水だ水だと言いながら飲んだが、ほんの最初のことだけである。下山後ももちろん酒である。小池都知事が知ったら目を剥いて怒ることであろう。すいません、僕が悪いじゃありません。皆にそそのかされたのです。



I シナさんと



山上の宴会



下山後の宴会